

監視カメラシステム

布野健二*
佐藤正弘*

要旨

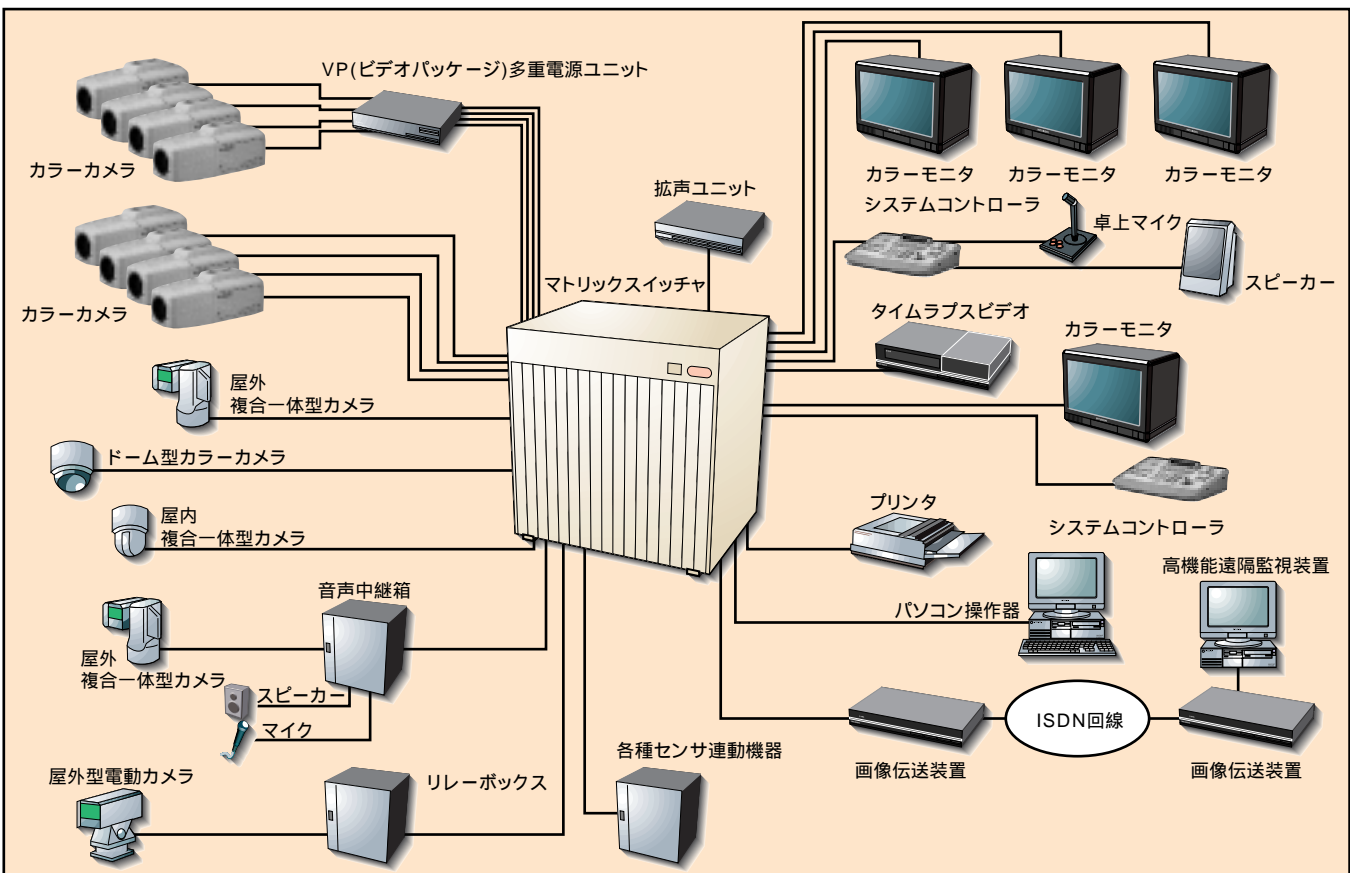
社会的環境の変化により、防犯・防災が強く求められるようになってきた。その中で、監視カメラシステムは、正確な状況判断と迅速な対応によって安全の確保を支援するものとして、重要な役割を果たすようになった。

事務所、ホテル、店舗、アメニティエリア、エレベーター内、駐車場等を持つ、高層化・大型化・複合化されたビル向けの監視カメラシステム市場では、大規模な集中監視システムの要求がある。集中管理センターでの24時間集中監視のほか、サブ管理センター、駐車場管理センターなど目的別・用途別にサブセンターでの監視要求(階層化)があり、監視カメラの増加対応だけでなく、監視箇所(モニタ、システムコントローラ)の複数箇所対応、監視コーデックを使用した遠隔地監視対応(広域化)が必要になってきた。

また、運用者(オペレータ)への負担を軽減するため、マンマシンインタフェース向上、各種警報に連動したセンサ連動機能や監視目的にマッチした映像監視とカメラ制御ができるシーケンス機能などでの監視の省力化が要求されている。

さらに、施工費用の削減要求から、監視カメラの小型・軽量化、ケーブルの省線化、制御装置の小型化が要求されている。特に大規模なシステムでは、監視カメラ-コントローラ間、コントローラ-モニタ間などのケーブル敷設の簡素化が求められている。

これらの多くの要求を満足する監視カメラシステムの核となるマルチポイントCCTVシステムを開発した。



監視カメラシステムの全体イメージ

今後デジタル回線の普及によって広域化・集約監視化が進むと考えられる監視カメラシステムの全体イメージとして、マルチポイントCCTVシステムを核とし、遠隔での監視も可能としたシステム構成である。